

北九州医療・介護連携プロジェクト会議 第10回合意事項等

日 時	令和4年3月31日（木）19：00～20：30		
場 所	北九州市総合保健福祉センター（アシスト21） 2階 講堂		
参加者	北九州市医師会	安藤 文彦	○
	北九州市歯科医師会	石田 力大	○
	小倉医師会訪問看護ステーション	泉 千秋	欠席
	福岡県介護老人保健施設協会北九州ブロック	犬塚 寛	○
	福岡県看護協会	境 美津枝	欠席
	北九州市薬剤師会	佐藤 千穂	欠席
	ケアマネット21	白木 裕子	○
	小倉在宅医療・介護連携支援センター	白土 健司	○
	北九州高齢者福祉事業協会	曾我 満美	○
	福岡県作業療法協会	玉野 和男	欠席
	福岡県介護支援専門員協会	坪根 雅子	○
	福岡県医療ソーシャルワーカー協会	藤好 正和	欠席
	福岡県理学療法士会	山内 康太	○
議題1	<p>【とびうめ@きたきゅう登録者数について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症の影響等により、登録者の伸びが鈍化している中、自治会等がよく頑張ってくれている。今後、要介護認定・要支援認定等申請書による登録者の増加に期待したい。 ○とびうめ@きたきゅうのチラシを持参せずに、タブレットを閲覧しながら説明できるよう、QRコードを作成し、要介護認定・要支援認定等申請書の記入例等に掲載して欲しい。今は、ほとんどのケアマネジャーがタブレットを持っており、SDGsの観点でも紙の削減に繋がられる。 ○生活保護受給者は登録するととびうめ@きたきゅうが役に立つ方も多い。要介護認定を受けている方はケアマネジャーでも対応できるが、要介護認定を受けていない高齢者や若い世代については、保護課とも協議しながら登録推奨に取り組んで欲しい。 ○高齢者以外も登録できることを改めて周知して欲しい。 		
議題2	<p>【医療・介護連携ルール活用状況等の調査結果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症の影響で、病院はケアマネジャーに連絡する時間も取れない大変な状況であった。このため、病院は連絡のついた家族にケアマネジャーへの連絡をお願いしていたことが、今回の調査結果になったのではないかと予測される。家族を通じてでもケアマネジャーに連絡が来るようになったことは、プロジェクトの好影響だと思われる。 ○新型コロナ対応で、まだ病院は大変な時期であり、必ずしも病院からケアマネジャーへの連絡ということではなく、すぐに連絡があるかどうかは主眼を置いて良いのではないか。 ○病院からケアマネジャーへの連絡ルートは、1つだけではなく2つあることも悪いことではない。こうしたことから、引き続き、医療・介護連携ルールを周知する必要がある。 		
議題3	<p>【とびうめ@きたきゅう導入診療所への好事例等アンケート結果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調査結果については、医療機関や介護事業所等に改めて周知したい。 		

<p>議題 4</p>	<p>【消防局における「とびうめ@きたきゅう」へのアクセスについて】 ○登録者数が増え、とびうめ@きたきゅうを検索した際のヒット率も少しずつ上昇してきており、このタイミングで進めていく。</p>
<p>議題 5</p>	<p>【病院窓口ガイドの改訂について】 ○ケアマネジャーはとても便利に使わせてもらっている。居宅介護支援事業所だけでなく、居宅系の小規模多機能型居宅介護や訪問看護事業所にも配布をお願いしたい。</p>
<p>その他</p>	<p>○入居系施設としては、とびうめ@きたきゅうが開始されたことで、施設職員の負担が減るのではないかと期待していた。しかし、真夜中に付き添った救急搬送先病院での拘束時間が減ることはなく、救急窓口や病棟などの様々な場所で、同じことを何度も聞かれる。病院に周知して欲しい。</p>